

浸種は3月30日、播種は4月10日以降に！

今年も高品質で美味しい山田米生産のため、コシヒカリの**田植えは5月6日頃**から行いましょう。
また、田植えにむけて、**浸種は3月30日頃、播種は4月10日頃**から行いましょう。

◎育苗計画の目安

浸種開始日	播種	田植予定日
3月30日～4月8日	4月10～18日	5月6～12日

若い苗は、分けつの発生が良い。
初期生育を良くし、穂数を確保！



◎事前作業

- ・ 苗箱の消毒はイチバンで！（苗箱はしっかりと乾かしてから使用）
- ・ **育苗器のサーモスタットは、使用前に必ず点検しましょう。**
- ・ 育苗ハウスの準備（ハウス内の均平化、温度計設置等）

<育苗の手順>

①種子消毒

◎種子は全品種消毒済なので、種子消毒は不要です。
浸種からスタートしてください。

②浸種

◎浸種初日は、消毒効果及び出芽揃いを高めるために、**12℃程度の温度を確保する！**

【ポイント】

- ・ 水温の目安は **10～15℃** で揃いがよくなります。
- ・ 浸種期間は、
水温×日数＝**積算温度 100℃確保**が目安です。
→（例 水温10℃×10日）
- ※水温が低い場合は、日数を長めにしてください。
- ・ 浸種袋に入れる種粒量は、袋の1/2程度。
- ・ 最初の2日間は水を入れ替えない。
- ・ その後、水の交換は1～2日毎とし、浸種袋の積み替えを徹底する。
- ・ 種粒が十分に浸かる程度の水量を確保する。
→（粒：水＝1：2）

③催芽

◎育苗器内の温度が**30℃以上にならないように注意！！**
目安：ハト胸～2mmまで

- ・ 温度は28～30℃で24時間が目安。
- ・ 1日2～3回袋を反転させる等により、発芽を揃える。



④播種

◎薄播きがガッチリ苗の基本です。

【ポイント】

- ・ 播種量は催芽粒で箱当たり150g（乾粒120g）
→裏面参照
- ・ 播種時にカビ予防として、かん水を兼ね、ダコレート水和剤500倍液を500ml/箱かん注する。

⑤出芽

◎出芽温度は**28～30℃を厳守**
(30℃以上にならないよう注意する)
【ポイント】

- ・ 2.5～3日間で芽の長さ1cmを目安とする。

⑥搬出

【ポイント】

- ・ 芽の長さ1cmで搬出する。
- ・ 搬出は原則として早朝に行う。
- ・ 搬出時には、覆土を落ち着かせるため、軽くかん水する。
- ・ 搬出後、カレイシヤ、またはフットをかける。

⑦緑化(3～4日間)

◎ハウス内の温度の目安→**昼25℃以下、夜10℃以上**
【ポイント】

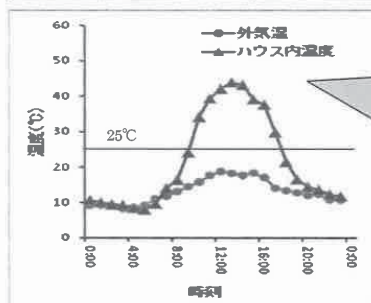
- ・ 緑化中でも温度が高い場合は、こまめに換気を行う。
- ・ 表面の土が乾燥している場合はかん水する。
- ・ 第1葉が展開したら速やかに被覆資材をはずす。

⑧硬化(18～20日間)

◎ハウス内の温度の目安→**昼25℃以下、夜10℃以上**
【ポイント】

- ・ 高温にならないよう換気を徹底する。
- ・ かん水は、原則として早朝1回とする。
(水のやりすぎに注意！)
- ・ 育苗時の防除対策

症状	薬剤名	使用方法	注意事項
ムレ苗	タチガレ エースM液剤	500倍液 かん注	かん注量は1箱当たり 500ml



晴天日にハウスを閉めっぱなしにすると、外気温が低くてもハウス内温度は40℃を超えます。
「晴れ」が予想される日は、朝から換気しましょう。

春の農作業安全運動 展開中「まずはワンチエック、ワンアクションで農作業安全」

★育苗前にワンポイント★

- ◎播種量を確認しましょう！
まずは試し播きを！
播種量は催芽初で箱当たり
150g（乾籾 120g）です。



【不足】
125g / 箱(乾籾 100g)



【適正】
150g / 箱(乾籾 120g)



【過剰】
175g / 箱(乾籾 140g)

【水稲育苗ハウスで野菜等の栽培を行われる方へ】

- 水稲育苗後のハウスで野菜等の栽培を行う場合、苗箱施薬剤は、育苗ハウスから搬出した後に施用してください。
- 播種同時施薬を施用した苗箱を並べていたハウスでは、野菜を栽培しないでください。

<春の土づくり>

- ・未熟粒の発生を防ぐには、登熟後半まで稲体の活力を維持することが重要です。
- ・春の土づくりをしっかり行い、健全な稲を育てる土台を整えましょう。

秋施用できなかった方は必ず春施用しましょう！！



① ケイ酸の施用で稲体の活力アップ!!

ケイ酸質資材を施用することで、気象変動に強い稲体を作ることができます。
また、アルカリ成分を含むケイ酸質資材は、pHを上げる効果もあり、継続的な施用でカドミウムの吸収抑制効果も期待できます。

【土壤改良資材の施用量の目安】(10a 当たり)

土壤改良資材の種類	施用量
シリカロマン	100kg
米取りけいさん鉄	100kg

☆☆ケイ酸の効果☆☆

1. 稲の姿勢が良くなり登熟や品質が向上します。
2. 割籾が減りカメムシ被害が軽減します。
3. いもち病に対して抵抗力が増します。
4. 倒伏しにくくなります。

② 作土深 15cm を確保し根を深く張らせる!!

作土が深くなると、根が伸びる範囲が広がり、より多くの養水分の吸収が可能となります。作土深 15cm を確保するため、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、現状+3cm の深耕を心掛けましょう。

◎GAP の取り組みで農作業事故を未然に防ぎましょう!

農作業事故を防ぐには、一人一人が身の回りにひそむ危険をあらかじめ把握し、常に安全を確認しながら作業することが大切です。

チェックシートの取組例を参考に、これからの農作業で予想される危険とその回避方法を、家族や営農組合等で事前に話し合いましょう!



GAPの取組内容	具体的な農作業安全の取組例
◆危険作業等の把握	<input type="checkbox"/> 危険性の高い機械作業や危険箇所を把握する
◆農業従事者の制限	<input type="checkbox"/> 飲酒後は機械作業や高所作業は行わない <input type="checkbox"/> 作業は計画的に行い、10時と15時に休憩する
◆服装及び保護具の着用等	<input type="checkbox"/> 機械に巻き込まれない適切な服装で作業する
◆作業環境への対応	<input type="checkbox"/> 路肩がわかるように、草刈りをしたり目印を立てる <input type="checkbox"/> 危険箇所に目印を設置する
◆機械等の導入・点検・整備・管理	<input type="checkbox"/> シーズン前に、機械の取扱説明書を読み、使用方法や安全装置等を改めて確認する <input type="checkbox"/> 使用前後の点検と定期的な整備を行う
◆機械等の利用	<input type="checkbox"/> 作業後は、左右ブレーキを連結するとともに、シートベルトを装着する <input type="checkbox"/> 作業機への詰まりを除去する際は、エンジンと作業機の停止を確認してから行う
◆農薬・燃料等の管理	<input type="checkbox"/> 農薬をジュース等の容器に移し替えない <input type="checkbox"/> 農薬や燃料は専用の場所に施錠して保管する
◆事故後等の備え	<input type="checkbox"/> 死亡やけがに備えた労災保険、第三者を巻き込んだ事故や自損事故等に備えた任意保険に加入する